

仙台市の虫「スズムシ」

# 広がれ！スズムシの輪

すずむしの里づくりボランティア養成講座

市民  
企画  
講座

## 令和5年度 第2回 日本の鳴く虫

講師：鈴木 理 氏

(株式会社エコリス 動物調査室)

日時：令和5年11月19日(日)

午前10時～正午(受付開始：9時30分)

場所：岩切市民センター研修室

対象：どなたでも 先着30名 参加費：無料

申込：令和5年10月1日～電話または窓口で

【申込・お問合せ先】

仙台市宮城野区岩切字三所南 8 8-2

岩切市民センター ☎022-255-7728



- 仙台市の虫「スズムシ」を育て・広げていく市民活動に興味がある
- スズムシのことをもっと知りたい
- スズムシ仲間を広げたい・つながりたい

**スズムシ**を知り・つながる講座の**受講生大募集!**

主催：岩切市民センター 共催：宮城野区中央市民センター  
連携：すずむしの里づくり実行委員会

## すずむしの里づくり事業について

宮城野原は、古来より多くの詩歌に歌枕として詠まれ、萩を愛でスズムシの音を楽しむ風流人のあこがれの地でした。

仙台のスズムシは「七振り鳴く宮城野の鈴虫」と呼ばれ、藩主の伊達家が将軍家に献上されたと言われています。また、秋になると陸奥国分寺の北東約550mの場所に、ゴザや緋毛氈を敷いて紫のまん幕を張った「鈴虫壇」がつくられ、仙台城から奥方やお姫様がくりだし、萩やススキを眺めスズムシの鳴き声を聞きながら野点を楽しんだとされています。

そのような歴史背景をもとに仙台市は、市民の自然愛護の象徴として、昭和46年に市民投票を行い、ハギ（花）、ケヤキ（木）、カッコウ（鳥）と並んでスズムシを仙台市の虫と定めて親しんできましたが、都市化の勢いに押され宮城野原一帯からはその音色が途絶えてしまいました。

すずむしの里づくり実行委員会は、宮城野のスズムシの音を復活させ、杜の都仙台の自然の中で、季節になると各地からスズムシの音色が聞こえてくるような「すずむしの里づくり」を目的に、一年を通してスズムシの飼育にあたりるとともに、小学生を対象とした出前授業、自然の中で生息できるように実験放虫、スズムシの無料配布・交換による普及啓発などの活動を平成6年度より続けています。



### 〈仙台市の花・鳥・木・虫〉



花＝ハギ



鳥＝カッコウ



虫＝スズムシ



木＝ケヤキ

仙台市の花・木・鳥・虫は、市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言10周年の昭和46年に市民投票により決定しました。